

第7回渚滑川ほか減災対策協議会 議事概要

日 時：令和3年7月26日（月）14：00～16：00

開催方法：WEBによる開催（Webex）

出席者：紋別市長、滝上町長、網走地方気象台長、陸上自衛隊第25普通科2等陸尉、
北海道警察北見方面本部警備課長補佐、紋別警察署警備課長、紋別地区消防組合
消防本部消防長、北海道オホーツク総合振興局副局長、網走開発建設部長

《議事内容》

（1）講演「なぜ常呂川流域タイムラインが必要なのか」

東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター客員教授 松尾一郎

※ビデオ上映～「第7回網走川ほか・常呂川減災対策協議会」

（令和3年7月5日開催）より

- （2）幹事会報告
- （3）取組状況のフォローアップ
- （4）情報提供
- （5）意見交換
- （6）今後のスケジュール

【事務局からの説明を踏まえた、各機関からの意見】

（紋別市）

- ・松尾先生のお話をお聞きして、タイムラインの必要性について十分に認識した。貴重なお話をいただき感謝を申し上げる。
- ・災害経験者が少なくなってきており、災害対応時の市職員等の人員不足や、消防団の団員数が減少および不足している状況もあるため、早期に連携を図っていくことが必要だと思う。
- ・紋別市では年2回総合防災訓練を実施しており、例年は、遠軽の自衛隊や紋別の海上保安部等、多くの団体や機関に参加いただき毎年大規模に実施している。しかし、昨年、今年とコロナの関係で大規模訓練ができておらず、小規模でもこれに代わるものがないかと考えている。特に避難関係については、避難指示に一本化されたこともあるため、もう一度見直していかなければならないと考えている。
- ・防災資機材については、ポンプ車2台も含めた資機材の購入計画のもとで進めており、年々充実していると思っている。
- ・要望として、ソフト面では、想定最大規模の洪水ハザードマップ更新に伴う洪水浸水想定区域の範囲拡大のほか、避難勧告が廃止され避難指示へ一本化されたことから、発令すべきタイミングを自治体が適切に判断できる情報の提供について引き続きご協力をお願いしたい。ハード面では、迅速かつ的確に河道掘削及び伐木、並びに浸透対策等水防活動の取組について引き続き進めていただきたい。

(滝上町)

- ・ 滝上町は渚滑川の上流域にあり、近年は河川災害に限らず大きな災害はないが、災害に対する取組については徐々に進めている状況である。本州では、70年も80年もそこに暮らしている人が初めて経験するような災害が発生しており、滝上町でも、今まで災害がないからと油断しているわけにはいかないと、住民の皆様の日頃から話している。
- ・ 本町は、台風や落雷による停電、あるいは大雪による災害を一番懸念しており、防災全般に取り組む中でも水防災を含めて対策を講じていきたいと考えている。
- ・ 停電対応時等の情報伝達手段として、登録制メールシステムにより、住民へメール、電話、FAXの方法で防災情報等の情報発信を行い、情報発信の体制を強化しているが、現在人口の12%程度の加入に留まっている。今後、配信方法にラインを追加することでより多くの人に登録してもらい、情報を届けたいと考えている。また、高齢者はスマホが使えない方も多くいるため、担当職員が個人宅等に出向きPRや説明をしている。
- ・ 行政だけの災害対応には限界があり住民等の協力が必要だが、町内には自主防災組織が一部しかない状況であるため、一昨年来から各町内会に啓蒙している。昨年は先進地の視察を計画し、コロナの関係でできなかったが、今年再度町内会長に呼びかけ視察を行いたいと考えている。
- ・ 道の管理区間であるが、一昨年、渚滑川本流に監視カメラ等を設置していただき、支流であるシュウトルマップ川にも簡易型の監視カメラを設置していただいた。また、大雨時一番懸念していたシュウトルマップ川は、道により河道の雑木・支障木の撤去等していただき、かなり河床も下がってきており、この点についても感謝を申し上げたい。
- ・ 昨年は防災訓練等を実施できなかったことを踏まえ、今年は8月にオホーツク振興局がコロナ下で開催する研修会に職員が参加する予定である。この研修会を踏まえ10月24日に町内の防災訓練を実施予定である。
- ・ 本町の住民は災害の経験がないため、我が町は安心だという意識が非常に強いが、そのことを過信せず、住民の皆様が日頃から様々な災害に即対応できるよう啓蒙、啓発をしていきたい。

(網走地方气象台)

- ・ オホーツク地域では、今年は6月以降非常に雨が少ない状況が続いている。一方、本州や九州では大雨となったところもあり、静岡県熱海市では土石流によって大きな被害が出ている。
- ・ 台風8号は関東や東北に接近する予想になっている。東北地方では、多いところで明日27日朝までの24時間で100mm、明後日28日朝まで100mmから150mmの雨量が見込まれている。
- ・ 台風8号については、オホーツク地域への直接的な影響はない見込みである。一方で、近年では、平成28年のように北海道にも台風が相次いで接近するケースも出てきている。
- ・ 台風の特徴は、熱帯の空気及び水蒸気を伴って北上してくるということである。台風が接近する地域においては、普段は流入しないような高温で湿った空気が運び込まれることになるため、台風の接近時に大雨に対する警戒が必要な大きな要因となっている。
- ・ 気象庁では、アメダスによる観測を1970年代から行っている、40年余りの観測を振り返ってみると、渚滑川の流域あるいは湧別川の流域では、1日の既往最大雨量として約150mmから200mmのオーダーで記録が残っている。
- ・ 近年、河川の改修や施設の整備等が進んでいるので、既往最大と同程度の雨量で渚滑川や湧別

川に直接的な影響が出ることは考えにくいですが、主要河川の増水により、流れ込む支流や内水への影響は十分に考えておかなければいけないと考えている。

- ・ 網走地方气象台として、近年の全国的な大雨の状況を踏まえて監視を行い、適切な情報の提供、雨量の見通し、タイミング、実際の雨量の観測状況など、気象観測、気象予測の観点から関係機関に協力していきたいと考えている。

(陸上自衛隊第25普通科連隊)

- ・ 各関係自治体を実施している防災訓練に参加している。また、自衛隊独自の取組として、フォローアップ資料に掲載のポート等の防災用機材の点検を含めた訓練を実施している。
- ・ 自衛隊では、ポートや災害用ドローン(UAV)等を保有している。
- ・ 体制は、常に24時間、いつでも1時間以内に最大30名を派遣できる状態になっている。当直勤務により24時間連絡が取れる体制になっており、災害対策本部の立ち上がりに合わせてリエゾンが派遣される形になっている。
- ・ 要望があれば、防災訓練等、様々な機会に我々の装備を持っていき、実際に目で確認していただくことを考えている。引き続き機会等あればお声がけいただきたい。

(北海道警察北見方面本部)(紋別警察署)

- ・ 水難救助訓練をはじめとした各種災害警備訓練を行っている。
- ・ 先日、熱海にも部隊を出して捜索および救助活動を実施した。今後は、特に土砂災害の現場における救助訓練に力を入れたいと考えている。
- ・ 气象台職員を講師として招き、警察官の防災意識の向上及び知識の習得を目的とした教養セミナーを開催し、北見方面本部のみならずオホーツク管内の各警察署が参加した。同時に、警察署員が中心となって教養セミナーで得た知識を地域の方へ伝達する活動も行っている。

(紋別地区消防組合消防本部)

- ・ 水防資機材の整備として、昨年度は紋別消防団のライフジャケットやトランシーバーを購入している。滝上消防団でも、水防活動用の胴突き長靴などを継続的に購入予定である。併せて、避難誘導や避難広報、さらには救急救助に係る資機材の整備を今後も計画的に進めていく。
- ・ 水防活動体制の強化では、紋別市長の発言のとおり、特に紋別市の消防団員が定数を大幅に下回っている。声かけ等の取組はしているが、就労構造の変化等昔と違う状況もあり、厳しい状況が続いている。しかしながら、水害時の活動は、地域に一番密着している地元の消防団員の方々が最も重要になるので、今後も強く認識して消防団員の増強に努めていく。

(オホーツク総合振興局)

- ・ 今年度、湧別川の道管理区間を新たに水位周知河川に指定したほか、昨年度までに危機管理型水位計及び簡易型監視カメラの設置を完了している。地域住民の円滑な避難の実現に向けて水防活動及び避難判断を補足する情報提供の強化を図っており、皆様にもご活用いただきたい。
- ・ また、防災訓練や研修会のサポートも引き続き行っているため、訓練などについてお困りの市町村があれば相談いただければと思う。今年度も引き続き取組方針に基づいて各種取組を着実に進めていくため、関係機関の皆様と連携して取り組んでいきたいと思っている。

以 上